



発行所 財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部44円
題字 井戸知事

火は見てる
あなたが離れる
その時を

自治体消防制度六〇周年記念式典

開催

昭和三十三年三月七日に消防組織法が施行され、市町村消防の原則に基づく今日の消防制度が確立して以来、この三月で六〇周年を迎えました。これを記念して、全国から消防関係者が集まり、平成二〇年三月七日(金)一〇時三〇分より日本武道館にて記念式典が天皇皇后両陛下ご臨席のもと厳粛に開催されました。

式典は、国家吹奏のあと、総務副大臣の開式の辞、総務大臣の式辞に続き、天皇陛下からお言葉をいただき、内閣総理大臣、衆参両院議長、最高裁判所長官、地方公共団体代表(全国市長会会長)の来賓祝辞が行われ、その後、内閣総理大臣表彰等の表彰及び感謝状が代表受領者に贈呈されました。
厳かな雰囲気の中執り行われる記念式典でしたが、川崎市幼年消防クラブによる特別演技(和太鼓)が披露されると、幼稚園児の可愛らしく、はきはきとした演技に会場も和やかになり、大きな拍手がおこっていました。

- 消防庁長官表彰
○表彰旗
豊岡市豊岡消防団
○竿頭綬
神戸市須磨消防団
加古川市消防団
○功労章
洲本市消防団
相生市消防団
丹波市消防団
姫路市安富町消防団
○永年勤続功労章
神戸市垂水消防団
神戸市兵庫消防団
神戸市北消防団
神戸市須磨消防団
神戸市西消防団
姫路市姫路東消防団
分団長 片山 隆昌

- 分団長 平塚 尚
副団長 梅元 義昭
分団長 川島 一男
分団長 寺内 正義
分団長 富田 重二
分団長 肥塚 勝弘
分団長 西村至言男
分団長 芝軒 義一
分団長 橋本 洋一
分団長 水畑 武志
分団長 安達 哲哉
分団長 西川 正好
分団長 藤田比羅雄
分団長 足立 孝義
分団長 北谷 良三
分団長 石井 宏明
分団長 原田 益男
分団長 宮垣 博文
分団長 池上 正光
分団長 梶野 節二
たつの市消防団

- 長官褒状
赤穂市消防団
○消防団等地域活動表彰
丹波ささやま農業協同組合
○特別功労章
兵庫県消防協会副会長
養父市消防団
○表彰旗
洲本市消防団
○竿頭綬
宝塚市消防団
小野市消防団
香美町消防団

- 功績章
神戸市灘消防団
神戸市西消防団
姫路市姫路東消防団
姫路市網干消防団
西宮市消防団
明石市消防団
尼崎市消防団
洲本市消防団
伊丹市消防団
相生市消防団
豊岡市豊岡消防団
豊岡市但東消防団
加古川市消防団
赤穂市消防団
西脇市消防団
宝塚市消防団
三木市消防団
高砂市消防団
川西市消防団
小野市消防団
三田市消防団
養父市消防団
丹波市消防団
副団長 谷口 政則

- 精績章
神戸市東灘消防団
神戸市西消防団
神戸市北消防団
神戸市灘消防団
神戸市消防団
西脇市消防団
宝塚市消防団
三木市消防団
高砂市消防団
川西市消防団
小野市消防団
三田市消防団
姫路市消防団
姫路市姫路西消防団
姫路市須磨消防団
姫路市飾磨消防団
分団長 松浦 敬彦

- 副分団長 前田 昌昭
副分団長 大西 洋紀
副分団長 中洲 雅文
副分団長 原田 明
副分団長 本山 二三
分団長 木下 育周
分団長 小嶋 康司
分団長 福井 治
分団長 金川 昌弘
分団長 上脇 昌樹
分団長 河川 清
分団長 椿野 仁司
分団長 山本 邦雄
分団長 大石 正浩
分団長 加藤 一夫
分団長 梶野 節二
分団長 金澤 正己
分団長 東田 岩一
分団長 吉野 宏行
分団長 岩本 先夫
分団長 入潮 泰吉
分団長 笹倉 克彦
分団長 竹中 壽一
分団長 梅脇 成公
分団長 竹中 俊満
分団長 大西 伯典
分団長 国井 利昭
分団長 濱谷 一繁
分団長 加藤 万豊
分団長 岡田 輝泰
分団長 古寺 一成
分団長 山下 哲男
分団長 喜多 正和

(敬称略)

市川町消防団 分団長 杉本 明伸 副団長 玉木 英徳 常峰 一郎	篠山市消防団 分団長 尾垣 春夫 副団長 田畑 幸生 藤澤 清	養父市消防団 分団長 太田常治郎 副団長 沖田 正喜 西垣 重喜	丹波市消防団 分団長 村上和也 副団長 稲場 孝生 荻野 克己	南あわじ市消防団 分団長 市原 政治 副団長 榎本 一博 奥村 直仁	朝来市消防団 分団長 戸田 正則 副団長 増田 博	淡路市消防団 分団長 近藤 敏延 副団長 一ッ田正也 柳川 浩幸	宍粟市山崎消防団 分団長 井口 亨 副団長 高井 佳彦	宍粟市波賀消防団 分団長 中田 雅之	宍粟市千種消防団 分団長 立道 圭一	たつの市消防団 分団長 田口 博文 副団長 二井 勉	加東市消防団 分団長 鷹尾 康信 副団長 内匠 秀門	猪名川町消防団 分団長 山本 信行 副団長 橋本 正一	稲美町消防団 分団長 古谷 悟	播磨町消防団 分団長 鳥越 秀幸	市川町消防団 分団長 松下 智昭
---	--	---	--	---	---------------------------------	---	-----------------------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	--------------------	---------------------	---------------------

分団長 佐伯 正人 副団長 高橋 道玄	分団長 山下 勝功	分団長 足立 良平	分団長 森川 敏文	分団長 岡馬 勇	分団長 坂本 浩一	分団長 竹内 秀樹	分団長 山下 通利	分団長 寺本 和真	分団長 今後 武司	分団長 山根 健司	分団長 北村 昭弘	分団長 島田 昭弘	分団長 浦 光勝	分団長 高原 満郎	分団長 上田 輝夫	分団長 森實 重道	分団長 川崎 敬司	分団長 釜須 一昭	分団長 山本 雅也	分団長 川上 好巳	分団長 上田 利幸	分団長 上西 利幸	分団長 北上 雅昭	分団長 仲池 清和	分団長 中田 哲夫	分団長 西岡 一男	分団長 前中 正巳	分団長 前 康雄	分団長 向井 孝史	分団長 向井 正幸	分団長 赤西 一夫	分団長 濱田 岩雄	分団長 高田 實	分団長 橋本 昭彦	分団長 大谷 利明	分団長 酒井 祐司	分団長 長谷川 安信
------------------------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	------------

分団長 山中 靖彦 副団長 加藤 薫	分団長 酒井 潔	分団長 福島 邦昭	分団長 中山 佳久	分団長 栗林 忠道	分団長 前田 一行	分団長 村田 勝喜	分団長 川端 征二	分団長 沢井 賢一	分団長 橋本 治三	分団長 源 敏夫	分団長 大川 正昭	分団長 豊島 義則	分団長 岩見 修治	分団長 竹島 新治	分団長 田中 靖則	分団長 中岡 龍夫	分団長 中橋 龍一	分団長 萬谷 志郎	分団長 松本 博之	分団長 尾西 晃	分団長 高松 正樹	分団長 岸 靖弘	分団長 木嶋 三春	分団長 功三 功三	分団長 田原 功三	分団長 田中 良雄	分団長 小島 好幸	分団長 高田 光雄	分団長 不動 方義	分団長 田中 仲幸	分団長 石原 勝実	分団長 釜地 英雄	分団長 森下 高明	分団長 榮木 清	分団長 松井 勝己	分団長 三谷 壽洋	分団長 尾口 正信	分団長 藤原 福男	分団長 木下 和彦	分団長 荒垣 吉明	分団長 田村 芳秀	分団長 福井 謙三	分団長 山口 進
-----------------------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------

分団長 松嶋 義則	分団長 上田 時夫	分団長 金澤 正己	分団長 草水 昭一	分団長 山崎 文和	分団長 鎌田 光男	分団長 好田 弘	分団長 小林 正博	分団長 高井 則明	分団長 早瀬 武	分団長 山田 昌弘	分団長 畑田 宏実	分団長 福田 博文	分団長 杉本 賢一	分団長 藤田 尚	分団長 藤原 郁夫	分団長 吉田 雅茂	分団長 吉田 正彦	分団長 山下 和也	分団長 坂田 義弘	分団長 橋本 慎介	分団長 森田 利博	分団長 三好 啓一	分団長 中西 貞	分団長 岡崎 隆	分団長 高槻 勝彦	分団長 澤見 弘三	分団長 草下 信幸	分団長 田村 和久	分団長 赤松 正敏	分団長 石若 一志	分団長 仲尾 行央	分団長 山下 良郎	分団長 山田 充	分団長 藤原 浩司	分団長 魚住 幸市	分団長 沖 政治	分団長 尾崎 博志	分団長 高嶋 伸男	分団長 原 一平	分団長 岩井 孝一	分団長 長野 隆一
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------



毛布を使用した搬送法に取組む付近住民及び消防団員

平成十九年一〇月二八日、淡路島内三市各地区において、今後三〇年以内、約五〇%の確率で発生が予想される南海地震の発生と津波の襲来に備え、地震・津波による被害の軽減と防犯行動力の向上、防災意識の高揚を目指し、島内住民及び防災関係機関・民間団体等約一二、六〇〇人の協力・連携のもと、「淡路地域南海地震防災訓練」が行われました。

この訓練は、同日に国土交通省と兵庫県などが芦屋市南芦屋浜地区をメイン会場にした「兵庫地区地震津波防災総合訓練」と連携して行われたものであり、両地域間を衛星通信で結び、相互の訓練状況がそれぞれの会場でライブ中継されました。

訓練内容については、島内全地区における家庭内訓練、津波情報伝達・広報訓練、現地災害対策本部等設置訓練、初期消火・通報訓練、応急救護・トリアージ訓練等が行われました。

洲本市では、午前九時に南海トラフ付近を震源とした大地震（マグニチュード八・四）が発生し、震度六弱を観測。午前九時一分神戸海洋気象台より、津波警報「オオツナミ」が発令された想定。又、他の二地区にあっても同様の想定が付与されました。

このように、今回島内各地区で行われた訓練により、参加者全員の防災行動力の向上、防災意識の高揚が図られたことと同時に、新たな問題点も確認できました。今後も、全島一体となり、防災への更なる取組みにより迫り来る南海地震に備えてまいりたいと思っております。

地区通信

「淡路地域南海地震防災訓練」

淡路地区

たつの市消防団 副団長 福岡 好雄	猪名川町消防団 副団長 井上 清隆	播磨町消防団 副団長 西田 啓治	佐用町消防団 副団長 加納 利治	香美町消防団 副団長 坂井 亮	加東市消防団 副団長 石井 修	岡村 昌美
----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	--------------------	--------------------	-------

○優良婦人消防隊
加東市女性消防隊
分団長 森 正義
副団長 山本哲之助
部長 島田 政実

栄えある受章
おめでとうございます。

「消防団活動を通じて」

播磨町消防団
二子北分団

中田 淳也



私が消防団に入団したきっかけは、消防団員をしていた親から入らないかと言われた事です。言われた時には特に熱中している物もなく、専門学校での勉強くらいだったので入団しました。入団し、様々な活動を行って行く中に入団してよかったなと思えるようになりました。入団せずに生活をしていては消火栓の使い方や場所を把握していなかったと思います。

しかし、消防団員として消火栓の確認、消火器具の状態確認等をしているとどこにあるのか、どのように使うのかを自然に覚えらるるのでいざという時には役に立つからです。もしも、自分の家や近所の家が火事になった時に消火栓の場所を覚えて、覚えていない、使い方を知っている、知っていないでは大きく変わってくるでしょうから。

また、私の勤務先では火災が発生しやすい条件が揃ってしまっています。勤務先で万が一火災に遭遇しても消防団で覚えた知識等を生かして率先して消火活動を行えるのも入団してよかったと思える時です。また知識は有っても意識の違いから落ち着いた行動もできないでしょうからやはり消防団に入団してよかったと思います。

われら若手消防団員

〈7〉

「災害が起こる前に出来ること」

朝来市消防団
生野支団第二分団

小山 亮介



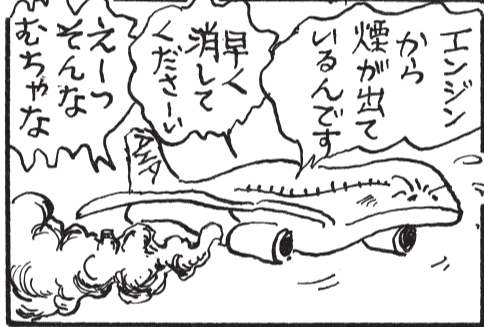
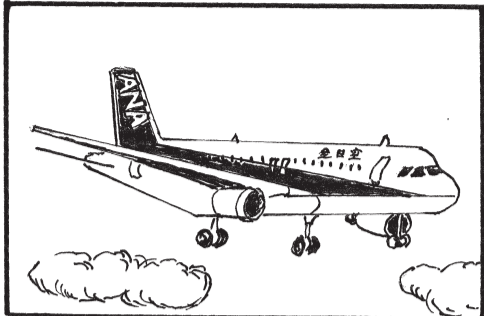
朝来市消防団生野支団第二分団は、朝来市の南端に位置し、四方を山に囲まれた市川が流れる自然豊かな場所を活動範囲とする。

私は大学を卒業し、朝来市役所に就職する事を機に、生野に帰ることとなり、それと同時に地元の生野支団第二分団に入ることとなりました。入団してまだ一年経っていませんが、団員としての活動は、月に一度の訓練と年末警戒を行っただけで、消防団員としての役割を十分に発揮できていないのが現状です。今年とは昨年とは違い、操法大会があるということなので、消防器具の扱い方や他の団員との連携等をしっかり学び、微力ながらも地域住民の安心安全確保のために努力したいと考えています。

幸いにも、私が消防団に入団してから、生野では大きな火災は、発生していません。それは、昨年の三月に二名の死者を出した火災があったため、まだ住民の防火意識が高い状態であるからなのかもしれません。しかし、また何時、火災や自然災害が起こるかわかりません。私は、団員が団結し、消火活動や救助活動に参加することも大切だと考えますが、やはり災害等が起こる前の呼びかけや避難用具の準備等の活動が最も重要な任務であると考えています。日頃の防災・防火活動を入念に行う

ことで被害を最小限に食い止めることができるのではないかと考えるからです。今、災害が起きていないことに安心せず、常に危機感を持ち、災害が起こる前に出来ることへの呼びかけ、火の元の管理、緊急時の避難用具等の確認など、地域住民に近い立場であることを最大限に活用し、事前に出来ることを理解してもらい、危機意識の向上に努めていきたいと考えています。

須磨浦ひろくの急げ消ちゃん PART 40



「共助の精神を地域で生かす」

元龍野市消防団副団長
森川 展宏



消防団には、昭和三十三年一月に入団し、平成八年三月までの約三十八年間在籍しました。退団後は微力ながら防火、防災の支援協力をお願い、兵庫県まとい

会たつの市支部の支部長として活動しています。入団時の龍野市消防団は、平成十七年一〇月の一市三町の合併を経て、平成十八年四月に再編統合され、たつの市消防団に変わりました。旧龍野市の龍野地区は龍野脇坂藩の城下町として栄え、龍野藩は代々江戸城の防火の役職に就くことが多かったそうです。さて、先日某新聞の社説欄に「消防団員を増やさなければ」と題して、消防団員数の減少を懸念する記事が掲載されていました。消防団員の減少の背景には、地域のつながりが希薄になった

ことを挙げていましたが、私は災害時の地域住民の連帯は強いと考えています。ただ、消防団への入団を若い人達が敬遠していることも事実であります。しかし、入団の気持ちは有るものの、一歩踏み出せず入団を躊躇している若い人も多く、その中に親の反対によるものがあると聞きました。私は、息子を地元分団に入団させました。それは若い力を地域の中で生かせる場があり、親として子供の人生に必ず役立つと思うからです。消防団は退きましたが、今後も消防団のすばらしさ、必要性を訴えていきたいと思っています。

消防団今昔

47

「三田市消防団員七〇四名」

三田市消防団副団長
畑 勇



三田市消防団は、一団七分団、条例定数七〇四名に対して実員数七〇四名を有し日夜市民の安全と安心のために備えています。私が消防団に入団したのは、今から三三年前になります。その当時は、今日のような耐火性に優れた建物も少なく道路についても整備されている地域が限られていたため、ひとたび火災が発生すれば大火となり、消防署よりも消防団が先着することもしばしばありました。

そういった状況の中において地域住民の方々から消防団員に対する期待も大きい反面、地域防災を担う責任の重さも痛感しておりました。しかしながら、時代が進むにつれ建物の耐火性が進歩し、地域の道路状況も大きく改善され、消防署につきましても多種多様な車両や資機材が整備されていくなど、災害に備える体制が大きく変化していくとともに、地域住民の防災に対する意識改革も進み地域住民の方々が立ち上がり、自主防災組織として活動を展開されていくようになりました。

このような、変化を受けて消防団員の意識にも大きな変化が生まれてきました。つまり、消防署や自主防災組織が地域の防災を大きく担っているのなら、消防団員の数も変化に応じて減らしても良いのではないかとという意見が出始め、遂には、退団者の数が、入団者

の数を上回り、実員数が条例定数七〇四名に満たない事態が発生しました。これらの事態を受け、我々は幾度となく会議を重ね地域住民の方々に消防団員の重要性を強く訴えていくことにより、今まで消防団員が存在しなかった、ニュータウン地域において、新たに消防団員として入団頂けたことは、大変感激したとともに消防団としての方向性を考え直す良い機会になったのではないかと感じています。

今後、消防団員確保という問題に関しては地域性や習慣等により格差があると思いますが、必ず発生する災害に立ち向かうには、やはりマンパワーが必要

です。その災害に備え、平穏な今から関係機関との連携を密にし、消防団員の確保に向け抜本的な施策を展開していきたいと思

北から南から

「丹波竜」 恐竜化石でまちおこし

丹波市消防団

丹波市は、日本海と瀬戸内海の間位置するのどかな田園地帯です。そこで平成十八年八月、丹波市山南町上滝の地層（約一億二千万年～一億四千万年前）から恐竜の化石が発見されました。平成十九年十一月時点では、竜脚類の肋骨一点、尾椎二点、血道弓三点、椎骨三点、脳函一点などが見つかっていました。竜脚類の中のティタノサウルス類（大型の草食恐竜）の化石の可能性が高いと考えられています。

今回発見された化石は日本で産出がまれな恐竜の化石であり貴重なもので、特に同一個体に属すると思われる複数の骨が埋まっている可能性があり、その場合日本ではトップクラスの恐竜化石になると考えられています。



発掘作業



丹波竜化石工房



クリーニング作業

また、恐竜化石のクリーニング作業を行い発掘作業の推進を図ると共に、丹波竜化石の展示場とするため、平成十九年十二月に丹波竜化石工房を開設しました。工房の作業場内には、集塵機や作業機などが設置され

エアーチゼルという機械を用いて、化石の周囲を覆う岩石を取り除く作業が行われています。

【丹波竜化石工房】

○所在地

丹波市山南町谷川一丁目一〇
山南住民センター内一F

○開館日時

水曜日～日曜日
午前一〇時～午後三時まで

※事情により休館する場合があります。

平成二〇年一月十一日から発掘ボランティアも参加し第二次発掘調査の本調査が開始されています。

地区通信

「地域の文化財を守る」消防団活動

姫路西消防団

姫路西消防団は過去、合併、再編を経て、今年で発足後、約四〇年を迎えようとしています。わが国では、ここ数年自然災害が多発し、大きな被害が発生しております。

また、災害も多様化、大規模化しており、消防団に対する市民のニーズは、益々増大しています。

我々は、郷土愛護の精神のもと、日夜、消防訓練、警戒業務、広報活動に奔走しておりますが、今回は当消防団の様々な活動の中から火災警戒活動についてご紹介させていただきます。

姫路西消防団の管轄区域には、数多くの文化財を所有する寺院仏閣や地域の伝統的行事があります。

そのような場所で火気を使用する場合、地元の消防分団が消防ポンプ自動車を待機させ、火災に対する警戒業務を実施しま

☆発掘現場は、JR福知山線下滝駅（無人）下車で徒歩二〇分。谷川駅からタクシーを利用すると約一〇分。また、クリーニング作業を見学いただく作業場は市役所山南支所の隣の住民センターに設置していますので、谷川駅からタクシーで五分です。ぜひお越しください。

【問い合わせ先】
丹波市企画部恐竜を活かしたまちづくり課
電話 (〇七九五) 八二一〇〇一 (代表)
FAX (〇七九五) 八二一五四八



「鬼の箸」

す。一月の中旬に各地で行われる「どんど焼き」開催時にも消防準備をした消防団が高々と舞い上がる炎の傍らで、待機しています。

また、西国霊場の第二七番札所「書寫山圓教寺」では、年末年始にかけ、多くの初詣客で賑わうため、地元の消防団は夜を徹して、警戒警備にあたっています。



松明を振りかざす赤鬼

さらに、毎年の一月十八日には書寫山圓教寺の年中行事として、年頭の初観音縁日に守護神自らが姿を現し、祈願する「修正会」（しゅうしょうえ）、俗称「鬼追い会式」（おにいえしき）が圓教寺摩尼殿及び白山権現十一面堂を舞台に盛大に執り行われます。

少しご紹介すると、古来、五穀豊穡と平和を祈る法会であり、境内の邪気を焼き尽くして断ち切るため、山の守護神・毘沙門天である赤鬼は背に宝珠の描かれた鎧を背負い、右手に鈴、左手に火のついた松明を持っています。

一方、不動明王の化身である青鬼は金色の宝剣を持っており、赤鬼、青鬼は鬼係の打ち鳴らす半鐘の音にあわせて、ゆっくりと堂内を巡り、舞踏祈願します。

この時、赤鬼が足を大きく踏み出して、松明を振り回すことにより、火の粉が飛び散り、危険ではありますが、儀式は神秘的、幻想的な雰囲気醸し出しており、会の人気の秘密でもあるのです。

参詣者のもう一つのお楽しみは、「鬼の箸」の授与でありあります。

これは、会の途中、鬼係から「鬼の箸」と言われる祈禱札「牛王宝印」（こおうほういん）



両手に宝剣を持って舞う青鬼

が参詣者に撒かれます。「鬼の箸」と言われるのは、これを裁ち割って箸にして使うと、歯が丈夫になるとか、健康になるとか伝えられているからです。

この伝統行事が無事、安全に挙行されるよう、姫路西消防団と姫路西消防署が連携して警備にあたっています。

火気（松明）使用に対する火災警戒態勢及び参詣者で会場が混雑することによる負傷者の発生に備えるために境内の警戒パトロール、ジェットシューターによる注水消火態勢、応急救護資器材の事前準備などの業務を行います。

また、山上に配備されている消火設備の点検も重要な任務であります。この機会に放水銃、消火栓、貯水槽をはじめ、常設ポンプ庫内に収納している小型動力ポンプ、筒先、水管、吸管などを入念に点検し、林野火災防制体制の万全を期しています。

我々、姫路西消防団は先人から引き継いだ郷土の誇れる文化財を火災から守るため、今後も消防訓練を重ねるとともに、積極的に警戒警備活動を実施し、地域の安全確保に努めていく所存であります。

編集後記

ようやく春めいた気候となってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。花粉症の方には辛い季節ですね。

さて、今月号は自治体消防六〇周年記念式典について掲載しております。消防団今昔には元龍野市消防団副団長森川展宏さん、三田市消防団副団長畑勇さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

今月号で平成十九年度分の兵庫消防は最終号となりました。発行にご協力いただいた皆様にも「兵庫消防」をよろしくお願ひします。

【事務局からのお知らせ】
「兵庫消防」四月号は休刊させていただきます

「こんにちは！兵庫の消防団です」



http://www.hyogoshoubou.jp/